

第12回アジア射撃選手権レポート

監督 選手強化委員長 岸高 清

今回は、ロンドン五輪出場権（QP）がかかる最後のチャンスであり、QPをできれば5個追加獲得したいという目標をかかげ大会に臨みました。

結果は、QPについては、50mライフル伏射男子で優勝した谷島緑選手（自衛隊体育学校）が獲得し、既に世界選手権で松田知幸選手（神奈川県警察）、小西ゆかり選手（埼玉県協会）とが獲得している2個と合わせて、五輪への出場は3名という結果になりました。

個人成績では、谷島選手が50mライフル伏射男子で見事金メダルを、松田選手がエアピストル男子で、秋山輝吉選手（宮城県警）がラピッドファイアピストルで、木田智宏選手（大阪府警）がスタンダードピストルで、それぞれ銅メダルを獲得し、さらに団体ではエアピストル男子が1735点の日本新記録で銀メダル、50mピストル男子、50mライフル伏射男子、さらにスタンダードピストルで銅メダルを獲り、合計8個のメダルを獲得しています。

まず50mライフル伏射男子の試合は、砂漠特有の強く時々突然止まる風を左正面から受けるという難しいコンディションの中で、谷島選手は独自の照準修正をしながらとにかく綺麗に反動を受ける事を優先して、合計59.3点で3位でファイナルに進みました。

ファイナルでも風は一段と強く吹き、谷島以外の選手が失点を重ねていく中で、谷島選手は4発目に10.9を撃って首位に立ち、ファイナル合計で101.8点とそのまま1位で逃げ切りロンドン五輪出場権と合わせて金メダルを獲得しました。

ラピッドファイアピストルで秋山選手は本選合計58.3点と、10月からの右目の不調を見事回復させ、3位で6名でのファイナルに進出しました。秋山選手は6回戦までで合計24ポイントと、中国のリ選手と並んで首位となり、3位決定の7回戦に進み、4ポイント撃てばQP獲得と2位以上が決定する状況の中で惜しくも3ポイントとなり、一方韓国のジャン選手はその日初めての5ポイント満点を撃ち、27ポイントで秋山と並び、五輪進出を掛けたシュートオフとなりました。

両選手ともに大きなプレッシャーが掛かる中で一回目は両者同点で2回目のシュートオフで秋山選手は2ポイントに止まり、続いてジャン選手が3ポイントを上げたため、残念ながら3位となりQPは韓国と中国が獲得するという大変惜しい結果となりました。

50mライフル三姿勢では、大会期間中最も強い秒速7mの強風が射座の左正面から吹き続け、多くの選手が通常よりも30点以上失点する結果となり、山下敏和選手（自衛隊体育学校）は、立射が終わったところで20位近くまで順位を下げましたが、膝射で38.4点と全選手中2位の成績で挽回し、本選合計で113.0点と、7番手でファイナルに進みました。ファイナル進出者8名の内、山下以外の6名までが、風が弱かった射場の両端10的以内の射座の選手であったことも、強風への対応がいかに厳しかったかを物語っていました。

ファイナルでも強風が続き3点や4点を撃つ選手が出る中で山下は、慎重に体の止まりを待って撃発を続け、合計89.4点と8名の中で4番目のファイナル点を撃って順位を一つ

上げ、Q P未獲得者の中の2位でファイナルを終えました。

この種目でのQ Pは3つ配分されていたため、多くの観客は山下がロンドン五輪を決めたと歓声を上げましたが、ISSFルールに、当該種目の最低基準点(MQS) 1135点以上を記録しない結果ではQ Pは配分されないとの文面があり、大変残念ながらQ Pは配分されないとの結論になりました。

全体として、今回の派遣選手は事前調整も順調で、また試合当日も高い緊張感の中、強風を受けながらも、最後まで自分の射撃をやりつづけようと懸命に闘っていました。結果としても日本の最上位選手は五輪10種目の内6種目で前回のアジア選手権より順位と点数を共に上げ、2種目で順位もしくは点数を上げています。一方、今大会ではベトナム、タイペイ、カタール、クウェートなど、インドやイランに加え、外国人コーチの指導を受けて新たにQ Pを獲得する新興国が急増し、五輪10種目の内9種目でQ P獲得レベルが上がる激戦となりました。

そのような中で、秋山選手、山下選手の結果は誠に惜しい実質的にはQ P獲得が取れていたと言いたい内容でしたが、勝負の世界は厳しいと言うしかありません。

今回の大会結果でも特に10m種目で、団体の順位が、松田選手がいるAPMでは2位であったものの、APWで6位、ARMで7位、ARWではウズベキスタン、カタールに次いで11位、と大きく低迷しており、我が国の若手層の競技力不足を痛感する結果でした。ジュニアのエアライフル人口の減少など大変厳しい競技環境の中、ジュニアの強化が何よりも重要であると改めて感じました。

今大会に向けて大きなご期待をいただきながら、1個のQ P獲得に終わったことは大変申し訳なく面目次第ありません。今後は20年ぶりの射撃での五輪メダルをめざす松田選手を中心にロンドン五輪の出場が決まった3選手の強化に全力を挙げるとともに、今回の試合内容から得られた課題への対応も含めた強化事業を検討していきたいと存じます。

今大会出場に向けて、ご支援をいただいた皆様にごころより感謝申し上げます。